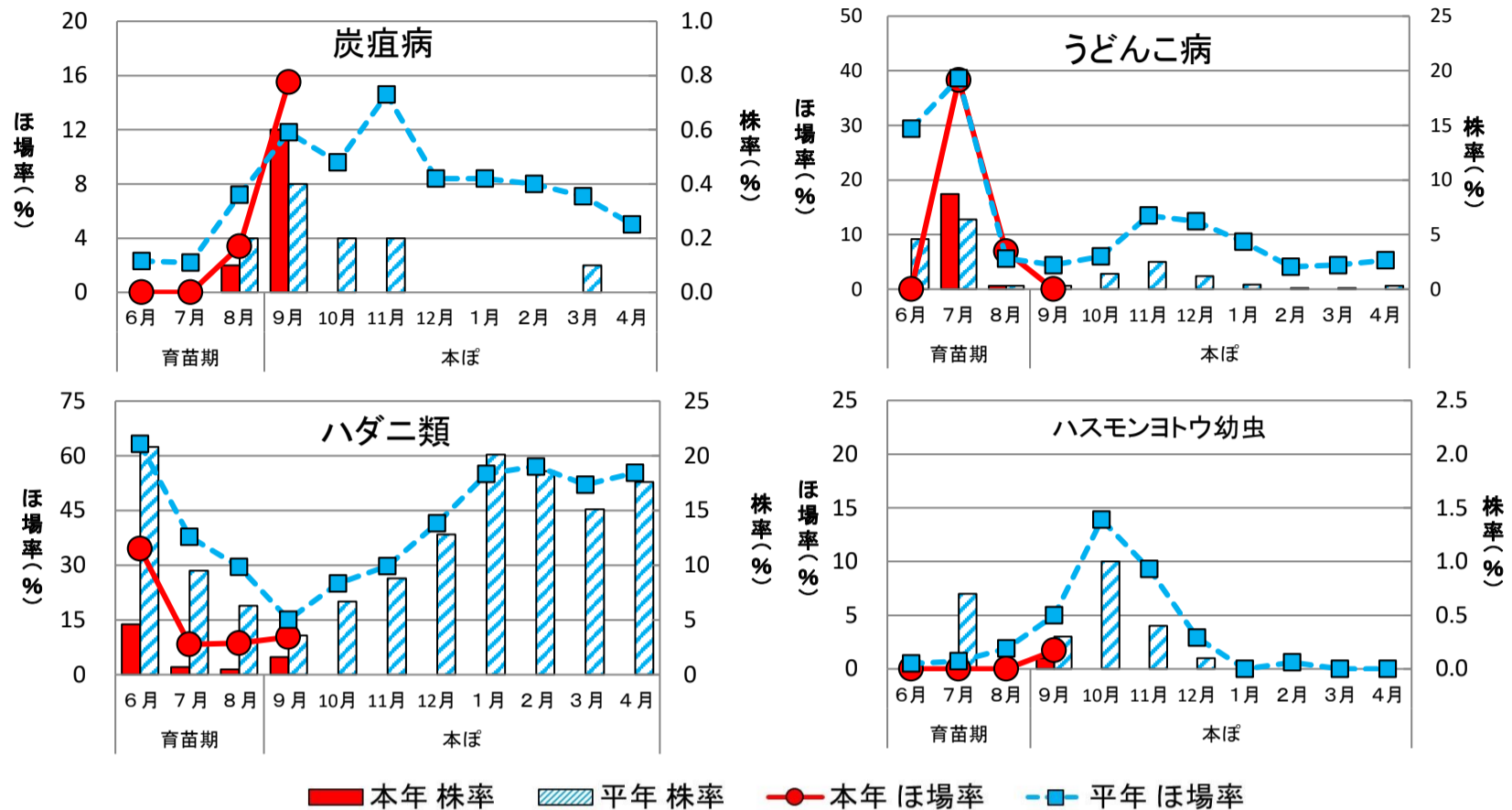


■ 病害虫の発生状況（育苗）

- ・炭疽病の発生は平年並みで、うどんこ病の発生は少ないです。
- ・ハダニ類の発生は平年並みで、ハスモンヨトウ幼虫の発生はやや少ないです。



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 主な病害虫の発生予想と防除対策

1 炭疽病

- (1) 発生予想
- ・発生量：やや多い
- (2) 対策
- ・植物体の濡れ時間が長いと感染・発病が助長されるので、かん水は午前中に行い、夕方には地上部が乾いた状態になるよう水量を調整する。
 - ・発病してからの防除は困難なので、予防を主体に異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
 - ・発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分する。
 - ・[植物防疫ニュース\(速報No.9\)](#)、[炭疽病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

2 ハダニ類

- (1) 発生予想
- ・発生量：平年並
- (2) 対策
- ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・薬剤抵抗性の発達を抑制するため、気門封鎖剤や天敵製剤を積極的に活用する。化学農薬を使用する場合は、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
 - ・天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。

3 ハスモンヨトウ幼虫

- (1) 発生予想
- ・発生量：やや多い
- (2) 対策
- ・成虫の侵入を阻止するため、開口部や出入り口に防虫ネットを展張する。
 - ・定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

■ 今月のトピックス さまざまな虫の卵

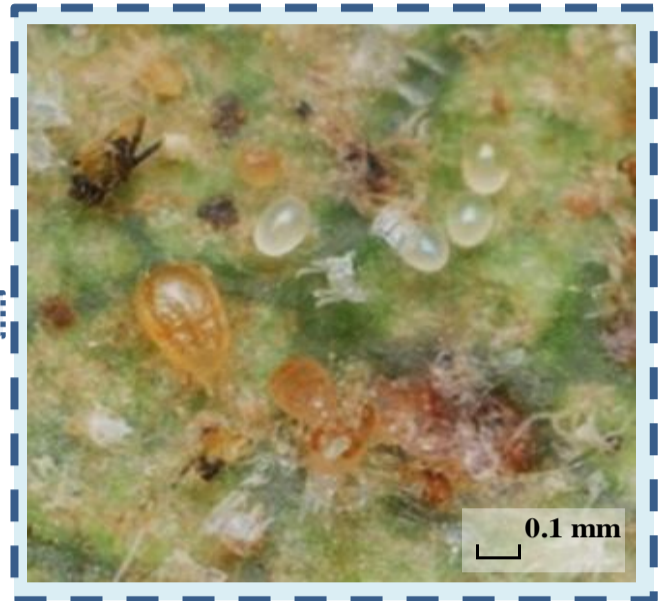
いちご栽培ほ場では、さまざまな種類の虫の卵が見られます。栽培管理上問題となる害虫と、それらを捕食する天敵について、卵の外観上の特徴を紹介します。

害虫の卵を発見した場合は早期に取り除き、被害の拡大を防ぎましょう。

(注) 各画像の縮尺は一致しませんので、大きさの比較はできません。



ハダニ類
【光沢のある球形】



カブリダニ類 (ハダニを捕食)
【光沢のあるだ円形】



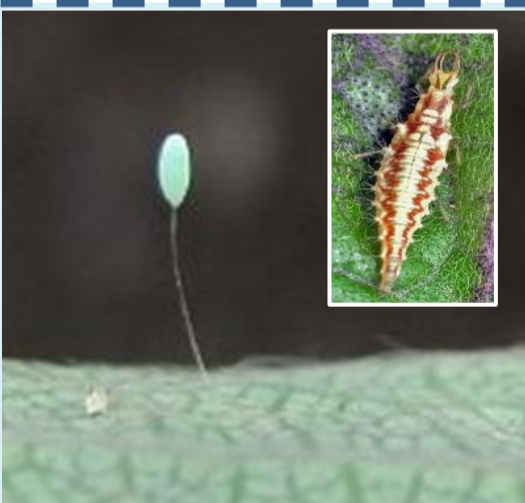
ハスモンヨトウ
【毛で覆われた卵塊】



オオタバコガ
【放射状の隆起線がある】



メイガ類
【うろこ状の卵塊】



クサカゲロウ類
(アブラムシなどを捕食)
【糸状の卵柄がある】



テントウムシ類
(アブラムシを捕食)
【ラグビーボール状】



ヒラタアブ類
(アブラムシを捕食)
【細かい模様がある】

GAPの実践で安全・安心ないちご生産に取り組みましょう！